THE PRESS ザプレス 国際高

発行所
富山市願海寺水口444番地
富山国際大学付属高等学校
新聞部
ホームページアドレス：https://www.tuins-h.ed.jp
印刷所　北日本印刷株式会社

# 2025年の目標 希望満ちる年に

1年生 新しいことに挑戦
2年生 全力で楽しむ
3年生 自分を高める

## 国際生＆先生 恒例 新年アンケート

### 3年生 昨年の漢字は「努」

2025年がスタートした。新年の初め、皆さんは今年の目標などを考えていることだろう。そこで、新聞部は毎年恒例、国際生と先生に今年の目標や、2024年を振り返ってどのよう年だったのかを聞いてみた。皆さんにとって、2025年が良い年になりますように。

**Q1．あなたの去年1年間を、漢字1文字で表すと?**

1年生は「新」が圧倒的多数。次点が「楽」、続いて「変」「喜」「恵」という回答が多かった。高校生活が始まったことが大きく影響していると思われる。2年生も「楽」が大多数で、「経」「挑」が続く。たくさんの経験をし、充実した高校生活を送れている人の意見が多く寄せられた。3年生で多かったのは、やはり「努」「受」「忙」。多くの人が受験勉強のために努力を続けたようだ。

【その他】
「幸」15年間生きていて一番幸せが多かったから（1年）
「部」部活を休まずに頑張ったから（1年）
「協」クラスのみんなで協力して何事も頑張ったから（1年）
「試」試みたことがたくさんあったから（2年）
「笑」1年間楽しいことが多くてたくさん笑ったから（2年）
「早」受験で1年間があっという間に終わったから（3年）
「考」受験でいろいろ考える年だったから（3年）
「最」最高に楽しい時間を過ごし、最大限に頑張った年だったから（3年）
「耐」いろいろ耐えながら頑張ったから（3年）

【先生編】
「動」私的に激動の年だったから（仲井校長先生）
「新」新しい発見が色々あったから（田畑先生）社会人1年目として様々な新しい発見、経験があったため（砂田先生）
「忙」とにかく忙しかった（奥澤先生）
「心」心労が多かった。クラスの生徒が心配だった（本田先生）心配の心です。自分のクラスの生徒の受験、両親の病気、息子の就職など数多くの心配事に追われたから（中山先生）
「苛」物事が思い通りにいかないから（橋川先生）
「病」昨年の夏にコロナ、冬にインフルエンザにかかってしまったから（上田先生）
「支」進路を拓く生徒たちを支える1年だった（庄司先生）
「続」何事も継続して行った（川西先生）
「素」気持ちに素直に生活していた気がするから（高道先生）
「積」コツコツとできることを積み重ねた（作農先生）
「感」色々な仕事が舞い込み、本校の素晴らしい生徒や先生に出逢えたことなど、「感」動と「感」謝が多い年だったから（野村先生）
「震」元日に大きな地震があったこと。オリンピックや大谷翔平選手など魂が震えるほど大きな感動もあったこと（大塚先生）
「山」山と隣合わせの生活だったから（鈴木先生）
「増」体重が増えてしまったため（西村先生）
「耐」全てを背負い、苦しみに耐え、それでも前へ進もうとした1年だった（坂田先生）
「慣」いろんなことに慣れてきた（山田先生）
「慌」3学年の担任の先生方等と比べるべくもないが、ほとほと心に余裕がなかった。（本波先生）

**Q2．去年、一番頑張ったことを教えてください。**

1、2年生の多くが「部活」、「勉強」、3年生は「受験勉強」、「思い出作り」が多かった。どの学年も勉強と部活に勤しんでいることが分かり、3年生はそれに加えて、高校生活最後の思い出作りをしている人が多いことが分かる結果となった。

【その他】
ポジティブになること（1年）
友達作り（1年）
毎日学校に行くこと（1年）
早寝早起き（2年）
推し活（2年）
臨機応変に対応する（2年）
推薦入試に向けて新聞を読んだり、ネット上の記事を見たりしたこと（3年）
猫と遊ぶ（3年）
体調管理（3年）

【先生編】
学校の進むべき方向性を明確に示した。（仲井校長先生）
家族を守る（奥澤先生）
何事にも全力投球すること（庄司先生）
年末の大掃除（高道先生）
朝1時間早く起きて体を動かすように努めた。散歩や家庭菜園の作業など（大塚先生）
全国での講演とイベント出展。移動が大変だったけど色々な出会いと笑顔に満ちてました。（野村先生）
ブログなどを見て学ぶ（鈴木先生）
長距離通勤（本波先生）
長距離運転（山田先生）

**Q3．今年の目標を教えてください。**

全学年を通して「受験や英検の勉強を頑張りたい」という意見が寄せられるとともに、「新しいことに挑戦したい」という意欲的な回答が多かった。また、3年生は新生活への期待があふれる回答が多数を占めた。どの学年も、多くの人が希望に満ちあふれていることが分かる。

【その他】
毎日思い出宝庫に（1年）
4か国語マスターする（1年）
新しいことに挑戦（1年）
全力で楽しむ（2年）
友達100人作る（2年）
新しい出会いを見つける（2年）
大学に向けて準備する（3年）
自分を高める（3年）
凡事徹底を常に意識する（3年）
節約（3年）

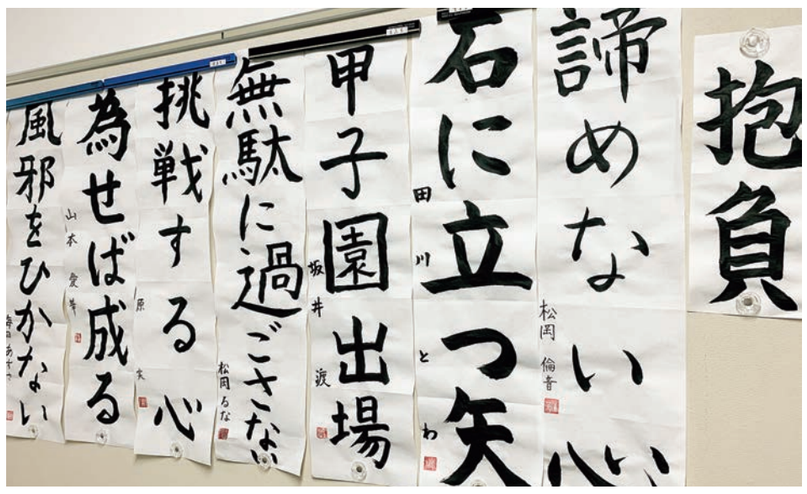
【先生編】
1日1日を大切に生きる！（仲井校長先生）
健康第一、元気に過ごす（本田先生、橋川先生、庄司先生、中山先生、坂田先生、山田先生、本波先生）
試（TRY）（作農先生）
講演、イベント出展で全国制覇（野村先生）
新しいことに挑戦、失敗にチャレンジしたい（大塚先生、川西先生）
乗り切る（奥澤先生）
自分を磨く（砂田先生）

**Q4．今年はどんな年にしたいですか?**

「成長できる年」「健康に過ごせる年」など自己研鑽や体調管理に努める声が多く寄せられた。1年生は高校生活2年目に突入する意気込み、2年生は3年生になるという期待と不安、そして3年生は、環境が変化することに伴って新たに挑戦したいことなど個性あふれる思いが感じられた。

【その他】
今まで頑張ってきたことを目に見える形になるものが欲しい（1年）
細かな活動やボランティアなどに積極的に参加したい（1年）
自分の目標を見つけて確実に頑張る年（1年）
苦手教科の克服ができる年（1年）
悔いのない1年（2年）
甲子園に行くたくさん笑える年にする（3年）
自分の可能性を広げる（3年）
無事に大学生活を送る（3年）
全力で楽しんで全力で勉強する（3年）

【先生編】
人生の一大転機の年とする！（仲井校長先生）
昨年以上に新しい発見に努める1年にしたい（田畑先生）
公私共に充実させる（西村先生）
規則正しく寝起きする（鈴木先生）
富山を再発見する年。ニューヨークタイムズの記者が行くべき町に選んでくれたのに、地理の教員である自分が行ってないところが多いから。（大塚先生）
おだやかな1年（本田先生）
新しいことに挑戦する1年に（山田先生）
今年1年間を漢字1文字で表すと?と聞かれて「活」です！と答えられるような1年にしたい。（本波先生）



1年生書道選択者の書き初め（今年の抱負）

## 韓国の生徒と楽しく交流
### 姉妹校・大田（テジョン）外国語高校が来校

楽しそうに花を生け交流する両校の生徒

韓国・大田広域市にある姉妹校、大田外国語高校からの訪問団が1月22日に来校した。本校への訪問交流は2017年1月以降、3回目。同校とは2018年に姉妹校提携を結び、定期的に相互訪問している。

来校したのは日本語科の生徒34人と引率の先生3人。一行は21日午後に本校に到着し、ホームステイをする本校生徒宅のホストファミリーと対面した。昨年8月に同校を訪れた国際英語コース2年生の家庭もあり、約半年ぶりの再会を喜び合っていた。

翌22日は、午前中はホスト生のクラスで一緒に授業を受け、午後は多彩なアクティビティーを体験。国際英語コース1年生との交流会では、グループに分かれて英語や韓国語、日本語で自分たちの街の特徴や好きなアーティストをテーマにディスカッションした。

華道体験では、韓国の生徒がホストファミリーを思い浮かべてチューリップやガーベラ、スターチスなど色とりどりの花を生け、ホストファミリーに贈る花束を作った。イム・ソハさん（1年）は「花を生けるテーマが家族なのが不思議で興味深かった。花を1輪ずつよく観察して、どの家族に当てはまるか考えるのが楽しかった」と話した。

光彩ホールで行われた歓迎式では互いの学校や地元について紹介し、本校生徒による「アニメ聖地巡礼クイズ」や、おわら踊りの披露で盛り上がった。韓国の生徒は流ちょうな日本語で自国の文化などを紹介していた。ハン・ナレさん（2年）は「日本語だけじゃなく英語も使って楽しく交流でき、みんなと仲良くなれて本当によかった」と話していた。

歓迎式後に記念撮影＝光彩ホール

### 記者の目

当日は交流の司会や通訳も務め、とても緊張したが、「通訳、必要だったのかな?」と思うほど、みんな日本語が上手なのに驚き、日々勉強を頑張っているのだなと実感した。本当に日本のことが好きな人達ばかりで、日韓の高校生がこのように交流する機会はとても貴重な時間になった。【関瑟基】

## 部説
### 能登半島地震から1年 私たちが今考えるべきこと

輪島市などで最大震度7を観測した昨年元日の能登半島地震から、早くも1年が過ぎた。8月、新聞部員として、そしてボランティアの一人として、被害が大きかった輪島市門前町を訪れた。地震発生から7か月で想像よりも復旧が進んでいた一方で、驚くことも多かった。実際に足を運び自分の目で見た被災地は、画面を通して見るものとは違った迫力があり、言葉で表すのが難しい複雑な気持ちになった。民家は崩れ、中も荒れ果てている様子が外からうかがえる光景に衝撃を受けたことを今でも鮮明に思い出す。当日は炊き出し活動などを通して仮設住宅の住民ら現地の方と交流を持ち、生の声を聞いた。

そして9月。復興に向け、住民の方や地域の子どもどうしで助け合い、制限ある暮らしの中にも楽しさを見出して前を向いていると聞いた頃、あろうことか能登に降り注いだ非情な豪雨。9か月かけて復旧させた道路や撤去した瓦礫だけでなく、仮設住宅にも浸水など大きな影響が出て生活は振り出しに戻ってしまった。現地では様々な物資が不足する事態が起き、食料だけでなく衣服や布団など生活に大きく関わる日用品や生活必需品が足りずに困っている、という声が届いた。私たち富山の高校生にもできることはないのか。新聞部は速報を発行して周知を図りつつ、11月1日の本校文化祭で募金と支援物資の回収を行うことにした。

当日、高校生でも集められそうな子ども服や防寒具などに絞ると、多くの協力が得られた。集められた物資は輪島市の町野町に届けられ、仮設住宅の住民の方がいらっしゃる場所へ届けられた。集められた物資は輪島市の町野町に届けられ、仮設住宅の住民の女性からお礼のハガキが学校に届いた。その文面には「貴校から寄付をしていただいた衣類は暖かいです。大事に使わせていただきます。忘れないでいてくれて、ありがとうございました」とペンで書かれており、こちらの心も温かくなった。

世界はどこかでつながっている。誰かが困った時こそ行動に移し、支え合うことが大切なのではないか。「情けは人の為ならず」―言うまでもなく、情けはいずれは巡って自分に返ってくるという意味だ。そして強く感じたのは、実際に被災地に足を運ばなければ感じ取れないものも多くあったということ。震災や災害の被害は怖く、目を背けたい気持ちも分かるが、メディアの報道やネット上の誰かの意見だけでなく、実際に現地に足を運んで自分自身で見聞きし、自分なりの考えや感情を持つことも大切だ。その経験は、もし富山県で大きな被害があったときに適切な対応につながるかも知れない。

さらに、現地からの痛切な声も届いている。それは、家が倒壊した住民の方の多くが県外などに避難したまま、帰って来ないという問題だ。住民の方がいなければ倒壊した家の未来は見えず、対処することができない。元々の住民が始まった「もとやスーパー」に置かれたという知らせを受けていたが、早速11月下旬、地元住民の女性からお礼のハガキが学校に届いた。その文面には「貴校から寄付をしていただいた衣類は暖かいです。大事に使わせていただきます。忘れないでいてくれて、ありがとうございました」とペンで書かれており、こちらの心も温かくなった。

世界はどこかでつながっている。誰かが困った時こそ行動に移し、支え合うことが大切なのではないか。「情けは人の為ならず」―言うまでもなく、情けはいずれは巡って自分に返ってくるという意味だ。そして強く感じたのは、実際に被災地に足を運ばなければ感じ取れないものも多くあったということ。震災や災害の被害は怖く、目を背けたい気持ちも分かるが、メディアの報道やネット上の誰かの意見だけでなく、実際に現地に足を運んで自分自身で見聞きし、自分なりの考えや感情を持つことも大切だ。その経験は、もし富山県で大きな被害があったときに適切な対応につながるかも知れない。

さらに、現地からの痛切な声も届いている。それは、家が倒壊した住民の方の多くが県外などに避難したまま、帰って来ないという問題だ。住民の方がいなければ倒壊した家の未来は見えず、対処することができない。元々の住民だけでなく新しい移住者を増やすことも難しく、ますます人口減少につながってしまうことが強く懸念されているのだ。

地震から1年経った今、能登では物資不足は少し落ち着いてきたものの、復興まではまだまだ長い道のりで、目処すら立たないままだ。能登の皆さんのため、私たち富山の高校生でもできることは必ずある。是非、現地に一度足を運んでほしいと思うが、できなくとも関心を寄せたり、自分なりの考えを持つのが第一歩だ。現地の方にとって「忘れないでいてくれて」、それを行動で表してくれることほどうれしいことはないのだ。震災後の地元のあり方についても、一度考えを深めてみたい。

## 続・海外特派員通信
### 唯一の外国人留学生として奮闘
山田真央さん（21H）Fromアメリカ

毎回好評の、海外留学中の国際英語コース生による「海外特派員通信」。今回は、昨年8月からアメリカ・カリフォルニア州のビッグベアハイスクールに留学している山田真央さん（21H・新聞部員）に伝えてもらう。

こんにちは。アメリカのカリフォルニア州ビッグベアシティに留学中の山田真央です。ビッグベアシティはカルフォルニア州の東、ロサンゼルスから車で2時間ほどの場所に位置している、山に囲まれた小さな街です。標高は約2千メートルあります。ビッグベアレイクという湖が隣接していて、自然がたくさんあり、とても美しいです。昨年9月には近くで山火事があり、2週間ほど学校が休みになりました。小さな街のため治安も良く、人気のリゾート地になっています。冬の季節はスキーをしに、たくさんの人が週末や休日にやって来ます。

私は、生徒数が700人ほどのビッグベアハイスクールに通っています。基本的に学校は7時40分から始まり、14時30分に終わります。2週間に1度ほど、月曜日は2時間遅れの9時40分に始まる時があります。1コマの授業時間は基本的に約1時間で、1日の授業数は6コマあります。日本の学校とは違い、私の場合、曜日によって授業は変わらず、毎日同じ科目の授業を受けています。また、授業では全員が同じ学年とは限らず、異なる学年の生徒がいる場合も多いです。そして、生徒は学校が始まる前に、受けたい授業を自分で選択します。難しすぎたり、異なる授業を受けたくなったりした場合はカウンセラーの元へ行き、途中で授業変更を行うことができます。

こちらでは先生ではなく、生徒が各授業の先生の部屋へ移動します。そのため、授業ごとに全校の生徒たちが次の授業に行くために一斉に移動するので、毎時間移動が大変で苦労しています。この地域はメキシコが近いため、生徒はアメリカ人だけでなくメキシコ人も多いです。メキシコ人の生徒全員が英語を話せるという訳ではなく、メキシコの公用語であるスペイン語しか話せないという人たちも少なくない、ということには驚きました。しかし、今年の外国人留学生は私一人しかおらず、特に外国人向けのクラスというものはありません。

私はビジネス数学・メディアアート・イヤーブック・ASB（生徒会的なもの）・美術・英語の授業をとっています。先生や友達も、私がわからないことが多くてたくさん質問をしても、みんな親切に答えてくれます。私のことを気にかけて下さる先生も多く、すれ違った時や授業中に私が困っていないかどうか声をかけてくれます。どの授業も日本より自由度が高く、生徒たちの自主性が求められます。課題を与えられ、それをこなす授業が多く、やるやらないも自由ですが、その分自己責任になるため、期限までにしっかりこなすことが必要です。

私のホストファミリーは、ホストファーザーとホストマザー、それと、もう働いて別に住んでいるホストブラザーが二人います。ホストマザーはジャパニーズアメリカンで、食卓にもたまに日本食が出てきたり、一緒に作ったりもします。夕食後には一緒にドラマや映画を見ることが多いです。話をしている時にわからない単語があると丁寧に教えてくれ、話している途中にも理解できているか確認してくれます。私の英語が上達するように、とても協力してくれます。

ハロウィンでは学校に仮装をして行く、サンクスギビングでは親戚で集まりターキーを食べるなど、知識としては知っていたけれど経験したことのなかったことを実際にすることができました。クリスマスは1か月ほど前から準備し始め、たくさんのプレゼントを用意し、家をデコレーションします。映画でよく見ていたようなクリスマスでした。

アメリカに来てから既に半年ほど経ち、アメリカ生活ももう慣れて適応できてきたと感じますが、それでもまだ驚かされることも多く、その度にまだ勉強すべきことが多いと思い知らされます。しかし、アメリカで盛り上がる伝統的な行事を実際に経験できて、とても貴重な経験となりました。この1年がとても大切で貴重であることを意識しながら、残りの日々を過ごしていきたいです。そして、こちらの人とコミュニケーションを積極的にとり、これからもたくさんの経験を積んでいきたいと思います。

学校の友達とディズニーランドで＝カルフォルニア州アナハイム（山田さんは右）

## かざぐるま

高校生主体の主権者教育イベントVoice Of Futureに実行委員として参加し、その中でデンマークの高校生とオンラインで交流した。デンマークは2023年に世界競争力1位、世界幸福度2位に選ばれ、子ども達のWell-being（幸福）を重視した非競争的な教育が根付いていることを知った★小中学校では点数によって序列をつけることが法律によって禁止されているため、試験がないことが最大の特徴。大学受験もない。そのため、自信をなくすことなく、自分の興味のあることややりたいことに集中することができる。大学へは高校の成績のみ、または自分が興味ある分野のボランティアやインターン活動などを通して実地経験を積み重ね、自己推薦書を書くしくみになっているようだ★また、デンマークではgap year（中学高校卒業後、自分が何をしたいか考えたりやりたいことに挑戦したりする準備期間）やフォルケホイスコーレ（全寮制の大人のための教育機関。18歳以上であれば誰でも入学できる）など、立ち止まって人生を考えるための機会が多く保障されている。だから同じ学年でも年齢がバラバラで、交流したデンマークの高校でもそれが当たり前だった★デンマークの教育は、「何ができるか」よりも「何がしたいか」を重視し、子ども達の幸福や自己実現を大切にしていると言える。将来、何がしたいか、私はまだはっきり決めきれていない。日本にgap yearがあったら、それを利用しても少しじっくり考えられるかも知れない。【山藤亜純】

特集

2年生 研修旅行

# 自律と自立を目指す旅に

2年生は12月16日から、海外２、国内２コースに分かれて研修旅行に出かけた。今回のコースと参加人数は、シンガポール103人、セブ島33人、関東68人、九州16人。
今回も有意義な研修にするため、コースごとに事前学習に取り組んでから出発した。各コースとも、自律と自立を目指し、実りある研修になったようだ。各コースに参加した新聞部員による紀行文と写真を掲載する。

## エメラルドグリーンの海 堪能

### セブ島コース

ヘリテージ・オブ・セブ・モニュメントで

**12／17**
富山駅→成田国際空港→セブ国際空港

**12／18**
ラプラプセブ大学（大学生とキャンパス見学、交流）→セブ島内観光

**12／19**
高速船でボホール島へ→ターシャ見学、ロボック川ランチクルーズ、チョコレートヒルズ見学→ショッピングモール

**12／20**
ボートでパンダノン島へ→シュノーケリング→オラゴン島周辺でシュノーケリング→マクタン島へ

**12／21**
セブ島国際空港→成田国際空港→富山駅

セブ島コースは12月17日から21日の4泊5日だった。初日は富山駅に集合して成田国際空港に向かい、セブ島行きの飛行機に乗ってセブ島に到着。2日目は、午前中にラプラプセブ大学を訪れ、現地の大学生とうちわ作りや大学内を探索するレクリエーションを体験し、現地の踊りを踊ったり昼食を一緒に食べたりして楽しんだ。

午後からはセブ島内の観光。まず、フィリピン最古で最小のサン・ペドロ要塞に行った。ガイドの方に昔の話を聞いたり絵を見たりした。次はマゼラン・クロスとサントニーニョ教会へ。日本ではあまり見ることができない本格的な教会に、生徒たちは興味津々だった。次に訪れたのは、ヘリテージ・オブ・セブ・モニュメント。ここでは戦争時の様子を巨大彫刻で見ることができ、迫力満点な彫刻に驚いている生徒が多かった。また、ヤップ・サンディエゴ・アンセストラル・ハウスにも行った。17世紀に建てられたフィリピンで最も古い歴史的な邸宅の一つで、昔のフィリピン人の生活を知ることができた。

3日目は、ボホール島に行った。まず向かったのは、チョコレートヒルズ。たくさんの小さな丘があり、紅葉の季節にはチョコレートのように見えることからチョコレートヒルズと呼ばれるようになったそうだ。次に、世界最小のメガネザル、ターシャを見に行った。ターシャは、10㎝ほどの手のひらサイズの霊長類の親戚。夜行性のため、見つけたターシャは木の葉に隠れていた。昼食はランチクルーズで、料理がたくさんあったり、現地の方が日本の歌を歌ってくれたりした。食事をし終わった生徒は風景を見て楽しんでいた。この日の最後はショッピングモールに行き、各自で夕食を取ったりお土産を買ったりして楽しんだ。

4日目は、午前中に船でパンダノン島に行き、海に入ったりビーチバレーをしたりして楽しんだ。昼食は焼き鳥のようなものや、エビやカニなどのバーベキューだった。また、マンゴーやバナナといった有名なフルーツも食べることができた。午後はオラゴン島周辺に向かい、シュノーケリングを楽しんだ。餌を落とすと魚がたくさん寄ってきて喜んでいる生徒が多かった。また、日本ではあまり見ることができないエメラルドグリーンの透き通った海を満喫した。夕食は中華レストランで中華料理を食べ、翌日、セブ国際空港から成田に向かい、バスで富山に帰った。【西森元胤】

現地の大学生に自己紹介＝ラプラプセブ大学

## 多民族・多文化を体験

### シンガポールコース

マレーシアで最も美しいといわれるアブ・バカール・モスクで

**12／16**
学校→中部セントレア空港→チャンギ国際空港

**12／17**
Ｂ＆Ｓプログラム

**12／18**
市内自主研修

**12／19**
マレーシア・ジョホールバルへ→シナラン村でホームビジット→ジョホールバル市内車窓観光→ナイトサファリ→チャンギ国際空港

**12／20**
→中部セントレア空港→学校

シンガポールコースは、12月16日から20日の4泊5日。初日は0時に学校から貸切バスで出発し、中部セントレア空港からシンガポールのチャンギ国際空港行きの飛行機に乗った。昼食の機内食を食べて空港に着いた後、バスで北京料理のレストランへ行き夕食をとり、ホテルへ向かった。

2日目は、B&S現地学生交流プログラム。現地の大学生が各班に一人ずつ付いて、地下鉄やバスを使いシンガポールを案内してもらった。私たちの班はシンガポール国立博物館やチャイナタウン、マーライオン公園などを訪れ、シンガポールの歴史について学んだり、昼食や街並みを楽しんだりした。有名なマーライオン像の前で写真を撮る生徒も多かった。大学生と別れる際には感謝の言葉を伝え、本校からのお土産を渡して交流を深めた。

3日目はシンガポール市内自主研修として、前日のB&Sで使い方を学んだ公共交通機関も利用し、各班が立てた計画に従って市内を観光した。私たちの班はセントーサ島に行き、自然やアクティビティを体験したり、昼食や夕食を食べたりして観光を満喫した。

4日目はバスでマレーシアに入国し、ホームビジットのためジョホールバル近郊のシナラン村を訪れた。バスが着くと現地の人が打楽器の演奏で歓迎してくれ、生徒が一緒に演奏したり、本校代表の竹内琴葉さん（24H）がスピーチを行ったりした。その後、各班がファミリーの家を訪問。自己紹介や現地の遊びを通して交流し、ファミリーが作ってくれた昼食を食べたり一緒に写真を撮ったりした。マレーシアの伝統衣装を着たり、ファミリーと同じように昼食は右手を使って食べたりと、マレーシアの宗教観や歴史に基づいた貴重な体験ができた。

午後はジョホールバル市内のモスクや王宮などを車窓から見学し、シンガポールに再入国。ナイトサファリに向かった。園内で夕食を食べた後にトラムに乗り、ゾウやサイなどの草食動物やライオンのような肉食動物などのあまり見ることができない夜の姿を目にすることができた。それから、チャンギ国際空港へ行き出国手続きを経て、日付が変わった後に離陸。中部セントレア空港からバスで15時頃に学校に着いた。【村野天飛】

マーライオン像の前で現地の大学生と

## 貴重な体験つづく毎日

### 九州コース

熊本城で

**12／16**
富山駅→長崎駅　市電に乗車→大浦天主堂

**12／17**
市電で原爆資料館→ハウステンボス（SDGs 環境学習ツアー）

**12／18**
佐世保　班別研修→長崎カステラランド（カステラ作り体験）

**12／19**
土石流被災保存公園→フェリーで熊本港へ→熊本城→太宰府天満宮

**12／20**
博多　班別研修→博多駅→富山駅

初日は乗り物を乗り継ぎ、1日かけて長崎に到着した。ホテルまでは市電で移動したが、長崎の路面電車は富山と似ているようで違う。例えば、単線区間しかない所があったり、料金が大人140円、小人70円と安いことに驚いた。自由時間は班別行動で、私の班は大浦天主堂まで行った。異国情緒あふれる街並みや下り坂から見える夕焼けを背景に、記念写真を撮った。

2日目は、長崎原爆資料館を訪れた。当時の日記や服、資料がそのまま残されており、原爆がどれだけ悲惨なものだったかを物語っている場所となっている。ある生徒は「訪れる前と後では原爆に対する心象がとても変わり、自分がどれだけ平和な場所で生きているか考えさせられた」と話していた。また、ハウステンボスでのSDGs環境学習ツアーでは、ハウステンボスがいかに環境に配慮して造られたのかを知ることができるツアーで、ガイドさんから図や例を用いて説明してもらった。

3日目はバスで佐世保に行き、班別研修。主に旧海軍佐世保鎮守府凱旋記念館や、カトリック三浦町教会を訪れた。そして午後からはカステラ作りを体験し、思い出に残る味になった。夜はそれぞれ長崎の郷土料理を楽しんだ後、島原温泉に入り旅の疲れを癒した。

4日目は、まず雲仙・普賢岳の麓にある土石流被災保存公園を訪れた。説明を受けた後、島原港でバスごとフェリーに乗船。乗船中はかもめに餌をやることができ、大群のかもめが至近距離まで餌を求めに飛んできた。フェリーを降りて熊本城を訪れ、集合写真を撮り見学した。昼食は馬肉のしゃぶしゃぶを食べ、特色ある料理を味わった。その後、福岡に移動し、学問の神様である太宰府天満宮を訪れた。みんなで参拝をした後、それぞれでおみくじやお守りを買った。おみくじは冬仕様になっており、趣向が凝らされて人気だそうだ。

最終日は博多駅でお土産を買った後、新幹線や特急を乗り継ぎ富山駅へと向かった。富山駅では校長先生をはじめとした先生方があたたかく出迎えてくださり、富山に帰って来たことを実感した。

この研修旅行では、普段の学校生活ではできない貴重な体験ができた。感じたこと、学んだことを今後に活かし、残りの高校生活を過ごしていきたい。【松村春佳】

カステラ作りに勤しむ生徒＝長崎カステラランド

## 編集手帳

実は先生に探究論文の書き方を聞いた　四季

最近さむいちゃむ。　マヨコーン

昼寝やばい昼寝さいこう寝る　財務省

コードギアス面白い　血染めのユフィ

受験勉強も資格勉強もがんばりたいです　トム

チョコレートに埋もれたい　目薬

今年はそんなに寒くなくて幸せ　やっぴー

毎日眠くて布団から出れない　ハムスター

口と鼻の間のくぼみが痒い　ダチョウさん

みなさんお疲れ様です。　全然雪降らない

1月2月はいそがしい時期です。　きっとcut

更なる進化を遂げ、最強の自分に我々はなる。　幸あれ

みんなうたうたの誕生日祝ってくださいな♪　うたうた

誕生日覚えてるよ10日でしょ！　ぱっし

入院中です　肩パッドてんとう虫

うちらのJKlie まだまだ今から　目指せトリリンガル

うちらのJKlie 本領発揮　うんちくん

年始早々不憫の大嵐だぜ☆　バナナ味のドリンク

高校数学難しいけどなるべく頑張る　昆虫好き

10時間睡眠したいよ　ケロちゃん

今年も一年頑張っていきましょう　真

## たっぷり満喫の４日間

### 関東コース

浅草寺で

**12／17**
富山駅→東京湾シンフォニークルーズ→→お台場散策→劇団四季「ライオンキング」鑑賞

**12／18**
浅草寺・仲見世通り散策→月島もんじゃストリート→TOKYO GLOBAL GATEWAY →横浜みなとみらい散策→揚州飯店（肉まん作り体験）

**12／19**
東京ディズニーランド

**12／20**
都内近郊　自主班別研修→富山駅

初日は、お台場でのシンフォニークルーズで綺麗な東京湾を一望しながら昼食をとった後、お台場を散策した。また、劇団四季の「ライオンキング」鑑賞は、舞台全体を使ったダイナミックな演出に、国際生は目を釘付けにしていた。

2日目は、浅草で歴史のある景観に触れながら、事前に調べたグルメスポットに立ち寄る生徒の姿が見られた。そして、有名な月島のもんじゃストリートで昼食をとった後、体験型英語学習施設TOKYO GLOBAL GATEWAYを訪れ、海外をイメージして作られた街並みでいつもと違う環境の中、グローバルな世界を体験した。アクティビティでは、グループに分かれてプレゼンテーションを行い、自分たちで作った紹介文にジェスチャーを取り入れながら楽しく英語で話している国際生が多く見られた。夜のみなとみらい散策ではロープウェイに乗り、夜の横浜の景色を存分に満喫した。夕ご飯は揚州飯店で肉まんと餃子作りを体験した。店員さんにレクチャーしてもらいながら、自分だけのオリジナル肉まんと餃子を作ることができた。生地で餡を包むことに苦戦したが、自分で作った肉まんと餃子は生地がもちもちでとても美味しかった。他にも、フカヒレスープや炒飯、杏仁豆腐など本格的な中華料理が振る舞われた。肉まんと餃子が蒸しあがるまでの間には中国語講座も開かれ、クイズ形式で基本的な会話や数字などの発音を学んだ。発音が似ている言葉が多く難しかったが、楽しみながら中国語を学んだ。

3日目は東京ディズニーランドを訪れ、クリスマス仕様に装飾された園内でパレードやアトラクションを楽しんだ。キャラクターたちがあたたかく出迎えてくれ、会話を楽しむ生徒の姿がたくさん見られた。また、キャストに探究活動のテーマについて質問をしたり、海外からの観光客と会話をしたりしている生徒もおり、どの生徒もたっぷりと満喫していたようだった。

最終日は都内近郊で班別行動をし、東京の街並みを楽しみながら有名な飲食店での昼食やデパートでのショッピングを楽しんだ。

この研修旅行では、普段なかなか行けない場所に行くことができ、貴重な4日間となった。この研修旅行で学んだ経験を、これからの学校生活や探究活動にも活かしていきたい。【川倉万葉子】

英語でコミュニケーション＝TOKYO GLOBAL GATEWAY